

第1回 Yamagata みらいコミュニティ座談会・概要

1. 日 時：令和2年5月18日（火）14時30分から16時00分まで

2. 場 所：山形県庁502会議室（オンライン会議）

3. 出席者

パネリスト：阿部有希氏、岡部優子氏、佐藤恒平氏、多田曜子氏、松山武氏

（一社）ふるさと山形移住・定住推進センター：駒林雅彦専務理事（兼）事務局長

県：吉村美栄子知事、小林剛也みらい企画創造部長、菅野亮一しあわせ子育て応援部次長、渡辺将和産業労働部長、高橋雅史農林水産部長

4. 会議次第

1 開 会

2 知事あいさつ

3 説 明

(1) 「Yamagata みらいコミュニティ」について

(2) その他

4 パネルディスカッション テーマ：「移住とやまがた Life ア・ラ・カルト」

5 閉 会

5. 会議録

■開会

■知事あいさつ

■説明

(1) 「Yamagata みらいコミュニティ」について

(2) その他

- ・ 資料1により、小林みらい企画創造部長から説明。その後、V-tuber ジョージ・ヤマガタ氏が割り込み、資料2：山形県の仕事とその魅力について説明

■「移住とやまがた Life ア・ラ・カルト」をテーマとして、パネルディスカッション

- ・ 小林みらい企画創造部長より、各パネリストの紹介の後、パネリストから山形県への移住の経緯について発表

【佐藤恒平氏】（ゲストハウス松本亭一農舎からの参加）

- ・ 東北芸術工科大学の学生の時に朝日町にお世話になった経緯もあり、朝日町の方から「地域おこし協力隊として移住しないか」と声をかけてもらったのがきっかけで、朝日町に移住した。
- ・ 朝日町の非公式 PR キャラクター“桃色ウサビ”の着ぐるみを着て、町の情報発信を行ってきた。現在は、“桃色ウサビ”に加えて、ゲストハウス松本亭一農舎の運営を行っ

ている。松本亭一農舎では、宿泊ができるが、フリースペースもあり、誰でも集える公民館のような場所として使ってもらっている。

【岡部優子氏】（ヒゲマルシェの作業場からの参加）

- ・千葉で美容師として働き、千葉出身の夫と結婚。農業を始めようと思ったきっかけは、急に夫から「山形で農業をやるわ」と言われたから。夫は、このまま今の仕事を続けて、子どもを育てて、老後を過ごすことができるのかと色々考え、山形で農業をやることを決めた。私の出身地である寒河江市に戻り、農業を始めた。
- ・現在、加温さくらんぼがピークだが、これから露地物のさくらんぼのシーズンが始まり、大忙しになる。

【松山武氏】（山形県漁協 鼠ヶ関総括支所より参加）

- ・東京都目黒区出身。小さいころ、同級生が祖父母のいる田舎に行くことが羨ましく、田舎にあこがれていた。東京で料理店を経営していたが、山形の知人の勧めもあり、山形市に出店。経営は順調だったが、東日本大震災の影響で経営が厳しくなり、店をたたみ、米沢市で生活。毎週のように、鶴岡市鼠ヶ関に子どもの頃から好きだった釣りに出かけていた。
- ・漁業者から研修制度（新規漁業就業者総合支援対策事業）の存在を聞き、最後の転職と心に決めて鼠ヶ関に完全に家を移して研修生となり、その後、独立した。

【阿部有希氏】（阿部ゆき結婚相談所からの参加）

- ・仙台の短大を卒業し、10年間山形県内で就職、生活。30歳でキャリアウーマンになる決心をして仙台市に戻り、就職。翌年の東日本大震災を受けて、今の働き方に疑問を持ち、また、一人では生きていけない、結婚しなければいけないと思い、婚活を始め、たまたま選んだ相手が最上町出身だった。
- ・夫が、日々仕事に追われる中で、農業への転職を考え始め、また、自分自身も子どもが生まれたばかりということもあり、「えー」とも思ったが、田舎の自然の中での子育てを想像してみたり、自分の新しい働き方を考えて、平成28年に夫の実家のある最上町赤倉温泉で生活を始めた。
- ・最上町への移住の話が出た際に、最上町長より「地域おこし協力隊にならないか。自分が一番の応援団となる。」と声をかけてもらった。最初は起業と地域おこし協力隊が直結しなかったが、仙台での活動の中で結婚相談所を開設している方より継承したいとの話もあり、地域おこし協力隊として、結婚支援をすることになった。

【多田曜子氏】（東京有楽町のやまがたハッピーライフ情報センターからの参加）

- ・コロナ禍の中で、急速にオンライン化が進み、どこにいても仕事ができる環境が整いつつあり、どうせだったらUターンしようかな、自然環境のいい所へいこうかなという人が前より増えている。山形は、IターンよりもUターンの方が多い傾向があり、コロナ禍では、Uターンの方から今すぐ山形に帰りたいという相談が増えている。
- ・移住希望者には、移住する前に環境を体験するようにアドバイスをしている。自分の目で肌で感じて自分の暮らしをイメージできるようになってから、本格的移住をした方が理想と現実のギャップが少なくて良いと話している。

- ・ オンラインを使った移住フェアでは、リアルで中継して、生の情報を知ってもらう機会を提供した。

【佐藤恒平氏】

- ・ 松本亭一農舎は、観光で宿泊もできるが、住む場所の情報提供や、地域の人と話がしたいという希望があれば、地域の人との交流の場のセッティングなど、移住支援の機能も有している。移住のためのステップとしてご利用いただくことも大歓迎。
- ・ “桃色ウサビ” は、芸術工科大学に通っているときに開発したキャラクター。個性がないシンプルなキャラクターだが、見た目がない分、まちの人と一緒にPRしていくという意図を持った育成型のキャラクターとなっている。メディアなどにとりあげてもらったおかげで、ツイッターのフォロワーも1万人を超えた。

【阿部有希氏】

- ・ 結婚相談は、県内各地からくる。協力隊の間3年間で250件を超える相談を受けた。40代男性からの相談が一番多いが、家、家族、土地、地域のつながりを持った結婚を望む人が多い。婚活している人は、父、母、祖父母の考え方が大きいので、最上町にも協力してもらい、婚活をしている人の父、母、祖父母や、地域の人たちにも現代の結婚事情を知ってもらう活動をしている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 地域の人といろんな形でつながっていくことが大事とのことだったが、岡部さんの地域の人を巻き込んだ体験型農業はどういったものか。

【岡部優子氏】

- ・ 体験型農業は将来の夢ということで、それをイメージしながら、農業を行っている。
- ・ 多田さんが言うように農業を仕事として考えるなら、1回だけでなく、1年間を通して農業を体験することが必要。実際に農業を経験し、どのくらい費用がかかるか分かることも重要。農業をやってみて、イメージと違ったと言って帰った人もいる。自分は県の農業支援制度を利用して、2年間研修を受けた。
- ・ 体験型農業やマルシェを行う夢については、山形県に移住して農業をしている人が多いので、そういった人たちや他の産業の人たち、近所のおじいちゃん、おばあちゃんが歩いてくることができるような場所を作りたい。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ ジョージ・ヤマガタ presents オンラインセミナーとして、山形の地域食材をテーマとして取り扱った。農作物は天候に左右されるほか、コロナ禍で価格も厳しい状況にあると聞いているが、農業にしても漁業にしても、いかに高付加価値を付けるかが、移住を希望する人にとって重要だと思っている。
- ・ 新庄市では、蚕の試験場跡地でマルシェをやっており、その地で採れた野菜をレストランで味わえるという取り組みが行われている。岡部さんの地域の人を巻き込んだ体験型農業の実現に向けて応援したい。
- ・ 移住をするにあたって、住むところというのも重要なポイントになるが、やまがたハッピーライフ情報センターでは、移住を希望する人に対して、どのような情報提供を行

っているのか。

【多田曜子氏】

- ・ やまがたハッピーライフ情報センターでは、自治体の皆さんと一緒に県を通じて物件を探すお手伝いをしている。
- ・ 移住にはお金がかかる上、首都圏から山形県に移住してきた場合、どうしても収入が減ってしまうことから、県では、昨年度から山形県に移住してきた人に家賃補助を開始した。また、食の支援ということで、米・みそ・しょう油も提供している。パスポートの事業も行っており、パスポートの掲示により加盟店から引越代の割引といったサービスを受けることができる。こういったことを行うことにより、山形県が移住してきた人たちを気持ちよく受け入れているといったアピールにもなる。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 松山さんは、漁業の研修制度を経て独立されたが、収入を含め生活はどうか。

【松山武氏】

- ・ 鼠ヶ関のようなところは空き家がたくさんあるが、仲介してくれる不動産業者がない。自分は、知人に紹介してもらった。漁業の研修期間中は年 150 万円の給付金があったが、保険料が月 2 万 5 千円もした。いい面としては、獲った魚を近所に持っていくと、米やおかずをもらえることで、食費はあまりかからなかった。お酒ももらったこともあった。
- ・ 現在、鯛が終わり、マグロのシーズンになった。夏場は、のどぐろ、サワラが獲れる。冬になる前はトラフグ。サワラは、県が“庄内おぼこサワラ”として、ブランド化を進めており、結構いい値段が付く。独立して一年目は笑ってしまうくらいの漁獲高で、昨年は、その倍くらいの収入だった。今年は、その上を目指していきたい。現在乗っている船が中古なので、新しい船を買って、振り幅の大きい漁業をやっていきたい。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 移住するにあたっては、仕事が重要なポイントだが、改善点なども含めて、佐藤さんにお聞きしたい。

【佐藤恒平氏】

- ・ 移住がたくさん増えるためには、山形に来れば稼げる必要がある。山形で働く人の賃金が高くなる、稼ぐことを恐れないチャレンジに対しての応援といった環境の面での良さが出るとがんばることができる。
- ・ 平成 20 年くらいから農業研修に対する給付金の交付が始まったが、農家の子どもが多く、親御さんが子どもに勧めた面が大きい。農業は儲かると、山形に住んでいる人が言えることこそが、自信をもって移住者を受け入れることができる山形につながる。
- ・ 稼げる山形が、移住への第一歩になると思う。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 視聴者の方から「農業者ではない山形県民。子どもに農業体験をさせたい。移住希望の方と体験イベントを行い、交流の幅を広げてはどうか」という意見をいただいた。

【佐藤恒平氏】

- ・ ゲストハウス松本亭一農舎では、農業体験イベントをやっている。ここ 2 週間に来て

もらえれば、田んぼの手伝いや、29日には手植えでの田植えも行うので、ぜひ、参加いただきたい。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ その他の意見として、「山形は良いところがあるが、プレゼンが下手とよく聞く。改善点はあるか。」「これまでの移住希望の方は、どのような家族構成、年齢なのか。今後の移住促進、関係人口増加のためには、こういった施策を進めていくのか。」といった意見をいただいた。
- ・ 山形県に移住してきた人はこういった人かという質問については、年齢も若い人だけではなく、年輩の人もあるし、独身、家族で移住した人など、様々である。
- ・ 移住促進、関係人口増加のための施策、山形の魅力発信については、山形は、ものづくりや農業が強い。そういった地域の魅力を発信できないかと、昨年から V-tuber ジョージ・ヤマガタ presents オンラインセミナーを開催した。甲府市、つくば市、渋谷区のスタートアップイベントで山形の企業の紹介をした。
- ・ また、オンラインセミナーの登壇者には謝金でなく、米俵を送ったところ、フェイスブックで取り上げてもらった。オンラインの時代なので、いろんな人とつながることができ、独身の女性にとっても、楽しい空間を作っていきたい。

【高橋農林水産部長】

- ・ 山形の漁業を支える人がいなくてははいけないと、新規事業を開始した。(資料3により、新規漁業者支援、養殖業の取組みなどの説明。)

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 農業等において、マーケティングと助成制度など、どうすれば経済的に回っていくのか、ジョージ・ヤマガタのセミナーでも取り上げていく。阿部さんの夫は農業をすると決断して農業を始めたが、地域の農業が魅力的になるにはこういったことが必要か、阿部さんからお聞きしたい。

【阿部有希氏】

- ・ 山形県の出身だが、最上町がアスパラガスの産地ということを知らず、最上町からアスパラガスが収入になると言われた。最上町に移住してきたばかりのころは、自分の地域おこし協力隊の給料と、夫の農業研修生の給付金で生活。アスパラガスを栽培し、5年でようやく収入になるようになった。東京のハッピーライフの移住者向けのイベントで「アスパラで年収1千万円も夢でない」といったイベントも行った。最上町、県でPRしてもいいと思う。
- ・ 夫が赤倉出身だったこともあり、子どもたちは阿部家の子だけではなく、赤倉の子として育てている。ただし、外から来た人にとっては、知り合いもいないので、何らかのフォローが必要。
- ・ 未婚の女性の年齢が上がるのに伴い、キャリアを積んでいる女性が増えている。そういった女性にとって、仕事を辞めることはリスクが高い。結婚を希望している人の両親世代に、週末婚や二拠点生活を理解してもらいながら、体制を整えていく必要があると思う。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 農業の所得や暮らしについて、岡部さんからもお聞きしたい。

【岡部優子氏】

- ・ 農業を始めたいと思っている人に対して、たくさんの支援策はありがたく、自分も活用させていただいたが、男性の意見と女性の意見は違うと思う。農業人フェアや移住イベントで、家族がいる人に農業を勧めることができるが、単身の女性に対しては、結婚、出産といったその人のライフスタイルを考えると、移住しての農業は勧めにくい。
- ・ 女性のための支援がない。農業をやっている女性に対する支援があると有難い。農業に従事している女性には、産休、育休がないので、ヘルプをお願いしなくてはならない。
- ・ ひとりで頑張る女性に対する支援は有難いが、出産した時、農作業を手伝ってくれる支援があると助かる。農家の人も、安心して子育てができる仕組みがあるといいと思う。

【佐藤恒平氏】

- ・ 地域の紹介になるが、朝日町には世界で唯一空気を祀っている神社があり、6月5日、6日に空気祭を開催するので、ぜひ、来てほしい。自分の結婚式も空気神社で挙げた。ラインのアカウント登録を行った方には、ゲストハウス松本亭一農舎でやっているイベントをお知らせする。

【吉村知事】

- ・ 農業、漁業、東京で山形県の紹介、結婚相談、ゲストハウスの運営といった、皆さんそれぞれの体験談をお話いただき、楽しい時間を過ごすことができた。
- ・ 誰もかれも山形に満足いただけるかという、必ずしもそういうわけにはいかない。都会暮らし、田舎暮らし。どちらも100%いいというわけではない。山形の生活、仕事、余暇など、色んなところを知ってもらって、体験してもらい、山形に定着してもらえたいことを進めていきたい。
- ・ 松山さんの魚を近所の人にあげると、食べ物をもらえるとといった話。そういったところが、山形県の強みだと思われ、そういった点を知ってもらいたい。都会生活で失われてしまった人とのつながり、ふれあいが山形には息づいていると思っている。
- ・ 映像、データに表せない、お金にも換算できないところが山形にはたくさんあるので、皆様方の具体的な体験、思いを、私たちと一緒に紹介いただければ大変ありがたい。
- ・ 山形県に移住した世帯に対し、米・みそ・しょう油を提供しているが、多田さんの話から評判がいいことがわかった。この支援は、生活者目線だからこそ生まれたもの。モノだけでなく、心も歓迎していますということも含まれていると聞いて、うれしく思った。
- ・ 田舎暮らしが合っている人、農林水産業や製造業に就きたいなど、いろんな人に、山形に来ていただければと思っている。ジョージ・ヤマガタでも、歴史、文化といった面も紹介しているが、皆さんと一緒に楽しい山形暮らしを紹介していきたい。
- ・ 本日は、本当に楽しいお話を聞くことができ、大変良かった。

■閉会

【小林みらい企画創造部長】

- ・ この Yamagata みらいコミュニティは、登壇いただいた方々、視聴者の皆様と、2回目、3回目以降参加いただく方と仲良くなって、顔の見える関係を作っていくことが、より良い山形を創っていくということにつながる。登壇者の皆様には、次回以降も参加いただき、一緒にやっていければと思っている。

以 上